

四季成り性イチゴ品種「サマーキャンディ」

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

イチゴは夏秋期でも業務用（ケーキ）需要が多く、そのほとんどは輸入イチゴが利用されている。実需者の国内産イチゴに対する要望は極めて高く、寒冷地においては夏期の園芸品目として注目されている。

そこで、県西部中山間地や三陸沿岸部等の夏期冷涼な気象条件を活かし、イチゴ端境期の需要をターゲットとした高品質で安定した四季成り性を有する品種「サマーキャンディ」を育成したので普及技術とする。

2 普及技術

1) 四季成り性イチゴ新品種「サマーキャンディ」は、宮城県農業・園芸総合研究所において「盛岡26号」×「サマーベリー」から得られた四季成り性が安定しているみやぎオリジナル母本を花粉親に一季成り性イチゴ品種「とちおとめ」を子房親とし、平成12年度に交配を行い、育成・選抜した品種である。

2) 「サマーキャンディ」は、夏期高温期でも連続して出蕾し、草勢が強い。果房着果数は9～10果程度で、平均1果重は9.1gである。夏秋どりをターゲットとした6～9月の株当たり収量は381.6gで、既存四季成り性品種より収量が多く商品果率も高い（表1, 表2）。

3) 果実糖度は9.3～10.5%、酸度は1.01%（滴定酸度クエン酸換算値）で糖酸比が高く食味は良い。果実硬度は硬く、果形は円錐形、果皮色は淡赤～赤で果実内部の空洞は無く、果実揃いも良い（表3, 図1, 2）。

4) 対象地域

県西部中山間地及び三陸沿岸部を普及対象とする（図3）。

3 利活用の留意点

- 1) 品種登録は平成19年度になる見込みである。
- 2) ランナーの発生は4～6本程度で少ないので、増殖にあたっては親株の導入本数に留意する。
- 3) 四季成り性が強いことから、果房が連続したり、株の生育に比べ着果負担が大きいと芽無し株となるので、適宜摘果房、摘花（果）が必要である。
- 4) 標準的な栽培として、苗は前年秋に採苗し、露地で越冬する。夏秋どりを目的とするため（7～9月どり）定植は4月中旬、5月下旬まで出蕾する果房は逐次摘除する。土耕栽培では雨よけ栽培とする。
- 5) 施肥は、土耕栽培では窒素分量で1.5kg/aを緩効性肥料で施用する。養液栽培では0.4～0.6 ds/mで管理する。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 園芸栽培部 電話022-383-8132）

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間：園芸作物のオリジナル品種育成 2001年～
- 2) 参考データ

表1 品種別開花期の生育 (2006年6月21日)

品種名	草丈(cm)	葉数(枚)	芽数(個)	第3葉(mm)			着果数(個)	出蕾までの葉数(枚)
				葉身長	葉幅	葉柄長		
サマーキャンディ	26.2	9.1	1.3	126	91	160	9.3	5.5
デコルージュ	26.5	9.9	1.4	109	96	152	8.6	5.8
サマーベリー	24.8	9.2	1.3	118	87	152	8.0	6.3
エバーベリー	23.7	8.0	1.2	101	96	155	11.2	-
ペチカ	23.4	9.8	1.8	110	92	143	9.9	4.7
エラン	17.0	11.9	1.7	72	72	96	8.6	-

注)着果数は6月に初めて出蕾した花房。出蕾までの葉数は収穫に供した1番目の花房と2番目の花房間葉数。

表2 品種別月別商品果収量(株当たり) (2006年)

品種名	6月			7月			8月			9月		
	果数	果重	1果重	果数	果重	1果重	果数	果重	1果重	果数	果重	1果重
サマーキャンディ	0.4	10.5	26.3	21.0	255.2	12.2	13.2	85.7	6.5	7.5	30.2	4.0
デコルージュ	1.7	30.0	17.9	9.6	75.7	7.9	8.0	42.3	5.3	5.3	22.0	4.2
サマーベリー	0.5	8.4	18.4	12.4	146.4	11.8	4.5	32.0	7.2	5.2	21.4	4.1
エバーベリー	0.1	1.5	16.0	20.6	196.2	9.5	7.7	40.8	5.3	4.7	19.1	4.1
ペチカ	1.4	25.2	18.0	15.9	156.4	9.8	11.0	88.3	8.0	5.8	24.6	4.2
エラン	4.7	47.3	10.1	9.8	81.0	8.3	12.9	74.5	5.8	8.2	32.9	4.0

品種名	合計			商品果率	
	果数	果重	1果重	果数	果重
サマーキャンディ	42.1	381.6	9.1	70.1	86.5
デコルージュ	24.5	170.0	6.9	69.4	82.2
サマーベリー	22.5	208.2	9.3	56.1	79.8
エバーベリー	33.1	257.6	7.8	60.1	77.7
ペチカ	34.1	294.5	8.6	48.3	69.1
エラン	35.6	235.7	6.6	56.8	75.6

耕種概要
 「サマーキャンディ」、「サマーベリー」、「エバーベリー」は2005年9月28日に35穴セルトレイに採苗、露地にて越冬、3/15日から12℃加温ハウスに移動した。
 「デコルージュ」:2005年9月に10.5cmポリポットに子苗を受け露地にて越冬、2006年3/15日から12℃加温ハウスに移動した。
 「ペチカ」:2006年3月にホープ社より導入、定植まで12℃加温ハウスで管理した。
 「エラン」:2006年2月1日128穴セルトレイ播種、2006年3月20日35穴セルトレイ仮植。
 定植:2006年4月6日。エランは2006年4月20日
 施肥量(kg/a):宮城型養液栽培(ヤン殻培地)硝酸石灰、大塚養液3号の混合、定植後は0.4dS/m、開花後0.6dS/mで管理した。
 栽植様式:うね幅150cm、株間25cm、2条植え(a当り533株)

注) 商品果は4g以上の成形果、及び5g以上の可販果。

表3 品種別果実の評価 (2006年)

品種名	Brix(%)				酸度(%)	糖酸比	食味	果実の硬さ	果形	果皮色	光沢	香り	空洞	果実の揃い
	6月	7月	8月	9月										
サマーキャンディ	9.5	9.9	10.5	9.3	1.01	9.7	良	116(やや硬)	円錐	淡赤～赤	中	中	なし	良
デコルージュ	9.3	8.7	-	7.4	0.99	6.4	中	107(中)	短円錐	赤	やや良	多	極小	良
サマーベリー	8.1	10.0	10.6	9.1	1.31	7.2	やや良	103(中)	円錐	赤～濃赤	中	中	極小	中
エバーベリー	7.2	9.9	10.3	7.5	0.98	8.9	中	119(やや硬)	円錐	鮮赤	やや良	中	中	やや劣
ペチカ	8.5	9.7	8.2	8.5	1.06	8.3	やや劣	123(硬)	円錐	淡赤～赤	やや鈍	中	極小	やや劣
エラン	8.6	8.5	8.9	8.6	1.09	7.9	やや劣	102(中)	円錐	赤	やや良	中	なし	中

注) 糖度6月は1回、7月は3回、8月、9月は各2回測定の前平均値。酸度は7月3回の測定の前平均値、滴定酸度クエン酸換算値。
 硬度は6月1回と7月3回測定の前平均値、単位は(gf、株)山電社製硬度計。糖酸比は6～9月の糖度平均値を6～9月の酸度平均値で除した値。



図1 「サマーキャンディ」着果状況



図2 「サマーキャンディ」の果実

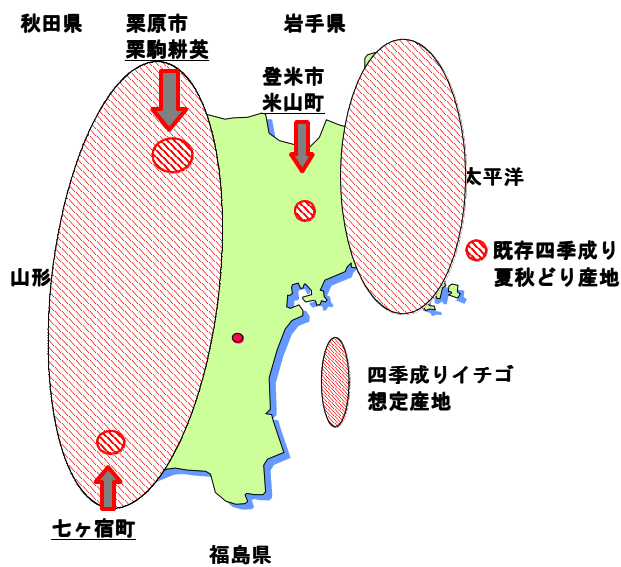


図3 夏秋どりイチゴ産地と「サマーキャンディ」導入適地

3) 発表論文等

鹿野弘ら，四季成り性イチゴ新品種「サマーキャンディ」の育成，園芸学会雑誌，第75巻別冊1 p.144，2006.

平成18年度成果情報「四季成り性イチゴ品種「サマーキャンディ」の育成とその特性」